

たいせつな時間は、写真の中で生きている。

記念すべき豪雨の野外コンサートでの1枚



photo by Kenji Taguchi

左から80年当時のチューリップの宮城伸一郎、姫野達也、財津和夫、安部俊幸、伊藤薫。大変な雨だったので、ステージも客席も、思いっきり感動の涙を流せた。

この写真は1980年7月26日、鈴蘭高原で開いた野外コンサートのリハーサルでの1枚。

僕たち「チューリップ」のメンバーの夢のひとつは、ウッドストックに象徴される「野外コンサート」で、そういうものを日本に定着させたいと思っていた。

デビューの翌年、幸運にも「心の旅」がヒットチャートの1位になったが、翌週には「私の彼は左きき」に抜かれてしまった。せっかく広く受け入れられる曲ができて、やっと崖からはい上がったのにといい複雑な心境だった。

その後、「青春の影」のヒットやこのコンサート前年の「虹とスニーカーの頃」がベスト3に入ったのが追い風になった。

このような大規模野外コンサ



profile

● Kazuo Zaito
シンガー・ソングライター。1948年、福岡市生まれ。高校でビートルズの影響を受け、72年、チューリップを結成、「魔法の黄色い靴」でデビュー。「心の旅」、「青春の影」「サボテンの花」など多くのヒット曲をリリース。90年にチューリップ解散。以後、グループと並行していたソロ活動のほか作曲家として楽曲提供や俳優としても活躍中。2007のデビュー35周年を控え、オリジナルアルバムのレコーディングに集中する日々。

財津和夫

トをワンマンで開催するのは僕たちが初めてだったが、貸切の新幹線やバスをチャーターして1万5千人もこの山奥に集まってくれた。

ところが、昼過ぎに降りはじめた雨が強くなったため、急遽、夜11時開演の予定を9時からに繰上げた。更に激しさを増す豪雨の中、ギターの音はペチャペチャと響かないし、ドラムには雨の池。客席はまるで田植えの光景。

雨に備えたマニュアルもなく、満足な演奏はできなかったにも拘らず、あの大勢のファンとの特別な一体感は何だったのか。10度近い寒さの中、なぜあそこまで熱狂してくれたのか。ぼくには、とてもエポックな真夏の夜の夢みたいな出来事として心に残る大切な写真だ。

(談)